

花見川区生活支援コーディネーター 活動事例集

～協議体からつながったネットワーク、地域資源創出～



千葉市花見川区 生活支援コーディネーター作成（令和8年6月）

本事例集の内容の無断転載・転用・複製はご遠慮ください

目 次

1.はじめに	1
2.生活支援コーディネーターについて	2
3.活動事例 地域資源開発・活用	
● 地域の拠点を目指したコミュニティスペースの活用（こてはし台圏域）	4
● 複数の多様な主体が協力して運営する交流の場 （花見川圏域・にれの木台圏域・中央区松ヶ丘圏域）	5
● 休憩場所の提供～ベンチの設置～（さつきが丘圏域）	6
● 地域交流スペースの活用～シニアリーダー体操教室～（にれの木台圏域）	7
● 施設の敷地を活用した社会参加の場づくり（さつきが丘圏域・にれの木台圏域）	8
● 施設内における地域住民向け健康教室の開催①（幕張圏域）	9
● 施設内における地域住民向け健康教室の開催②（幕張圏域）	10
● 社会福祉法人の地域における公益的な取組（幕張圏域）	11
● 地域に訪問する地域交流（幕張圏域）	12
● 敷地内移動販売の地域開放～できることから始める～ （花見川圏域・さつきが丘圏域・花園圏域）	13
● 施設のスペース・行事を活用した地域交流（花園圏域）	14
4.活動事例 マッチング支援	
● 視覚障害がある女性と高齢男性の夫婦の活躍の場～オカリナとギター演奏～ （花見川圏域・さつきが丘圏域・花園圏域・稲毛区園生圏域）	17
● 主に自宅内で活動している高齢女性の楽しみを広げる～ハーモニカ・大正琴・折り紙～ （花見川圏域・にれの木台圏域・花園圏域）	18
● 高齢者の活躍の場の提供～作品展示と配布・地域交流の拠点～（さつきが丘圏域）	19
● 転居してきた一人暮らしの高齢女性が社会参加できる居場所づくり～転居前にしていたこと～ （さつきが丘圏域・にれの木台圏域）	20
● 閉じこもりがちな高齢女性の選択肢を広げる～新たな活動の場とのつながり～（花園圏域）	21
● 一人暮らしの高齢男性が地域の中で役割をもつ～駄菓子屋のお手伝い～（幕張圏域）	22
5.問合せ先	23

1. はじめに

日頃より、花見川区における地域づくりや高齢者支援の取組にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

生活支援体制整備事業は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、生活支援・介護予防サービスの充実と、それを支える地域の仕組みづくりを進める事業です。地域住民、関係団体、民間企業、専門職、行政など多様な主体が連携し、生活支援コーディネーター（以下 SC）と協議体を中心に地域の支え合い体制の構築に取り組んでいます。

加速する少子高齢化に対応するためには、医療・介護サービスだけでなく、地域の多様な関わり合いの中で「担い手・支え手」となる意識を育むことが不可欠です。高齢者の生活は専門職だけでなく、地域住民や産業など様々なつながりによって支えられています。そのため、高齢者自身も地域の一員として参画し、多様な主体が関わり合いながら地域社会を形作っていく体制の構築が求められています。

令和元年度から続いた新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢者の社会参加の機会が大きく失われました。令和5年度になり、感染状況が徐々に落ち着き始めると、福祉施設からは、地域交流再開の動きや声が寄せられるようになりました。こうした状況を踏まえ、福祉施設との連携強化により地域課題の解決につながると考え、花見川区では令和5年度より、福祉団体を中心に民間企業、相談支援機関、行政と SC が地域課題やニーズを共有する場として協議体を開催してきました。協議体では、各団体の活動や強みを共有し、意見交換を通して地域における支え合いの体制づくりを進めています。

本事例集は、これまでに花見川区で開催した協議体における取組や、話し合いの中から生まれた活動について整理し、まとめたものです。

皆様の今後の活動の参考となるとともに、地域における支え合いの取組が広がり、「地域包括ケアシステムの深化・推進」の実現に向けた取組の一助となれば幸いです。

2. 生活支援コーディネーターについて

生活支援体制整備事業は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域における多様な主体が連携し、介護予防・生活支援サービスの充実や支え合いの体制づくりを推進する事業です。

住民、ボランティア、NPO、民間企業、関係機関などが協働し、地域にある資源の把握や新たな活動の創出を進めるとともに、協議体の設置や生活支援コーディネーターの配置を通じて、地域の課題の共有やネットワークづくりを進めています。これらの取組を通じて、高齢者の社会参加の促進や地域の支え合いの仕組みづくりを進め、地域共生社会の実現を目指しています。

千葉市では、介護保険法に基づく地域支援事業として生活支援コーディネーターを配置し、協議体を通じて地域資源の把握や生活支援サービスの創出、関係者のネットワークづくりを進めています。

また、フレイル状態の高齢者をはじめとする地域の高齢者が、活動を通じて社会参加や介護予防につながるよう支援するとともに、あんしんケアセンター（地域包括支援センター）やケアマネジャーと連携し、自立支援へ向けた活動へつなげています。こうした取組を通じて、高齢者の生活機能の維持・向上や地域の支え合いの仕組みづくりを進め、地域包括ケアシステムの深化・推進を図っています。

【生活支援体制整備事業の目的】

高齢者の尊厳と自立した日常生活を**地域でささえていく**ためには、総合事業として実施するサービス・活動事業及び一般介護予防事業並びに地域住民を含めた多様な主体による高齢者の自立した生活や介護予防に資する総合事業に**該当しない多様な活動又は事業**について、事業間での**連動を図りながら**実施することが重要である。

このため、市町村が中心となって、**元気な高齢者をはじめとする多世代の地域住民が担い手として参加する**住民主体の活動団体、地域運営組織、NPO 法人、社会福祉法人、社会福祉協議会、地縁組織、協働組合、民間企業、シルバー人材センター、介護サービス施設・事業所、老人クラブ、家政婦（夫）紹介所、商工会、民生委員等の**多様な主体による多様な生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築し、地域の支え合いの体制づくりを推進していく**ことを目的としている。

（地域支援事業実施要綱[令和6年8月改正]）

3. 活動事例

地域資源開発・活用

地域には福祉施設や民間企業など多様な主体（団体）があり、これらは高齢者の暮らしを支える貴重な「地域資源」のひとつです。

生活支援コーディネーターは、こうした多様な主体（団体）と連携し、その強みや専門性を活かした新たな交流の場づくりを進めています。

福祉施設や民間企業による地域交流の取組を、生活支援コーディネーターが地域資源としてつなぎ合わせることで生まれた資源、ネットワークの効果について具体的な事例を紹介します。

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和5年7月	支援種別	地域資源開発・活用
圏域	こてはし台圏域		
施設種別	社会福祉法人		
施設名称	オリーブの樹		
概要			
【テーマ】 地域の拠点を目指したコミュニティスペースの活用			
【経緯】 施設がコロナ禍の一時休業を経て、地域の拠点となる場所を再オープンすることを把握した。活動内容と高齢者の活動拠点としての利用方法の検討を行った。			
【内容・結果】 ① 地域住民が気軽に利用できる場所として周知していく。 ② 会議や打ち合わせの場所として活用する。 ③ 認知症カフェにコミュニティスペースを提供した。 (名称) ○○カフェ (まるまるカフェ) (日時) 第3火曜日 10:00～12:00			
【効果】 (施設) ① 施設のことを知らない住民に知ってもらう機会になっている。 ② オリーブハウスの利用者が地域住民と交流する機会となり、コミュニティスペースの活動が多岐にわたることで利用者も様々な活動に触れることができる。 (地域住民) ① やりたいこと・したいことができる場所、行く目的がある場所として社会参加を促進している。 地域住民の声 「サークルの打ち合わせで使わせてもらっている。飲食の持ち込みができて嬉しい。」 「認知症カフェに参加している。おしゃべりできる場所があって良い。」 「こてはし台になくてはならない存在になっている。」 (生活支援コーディネーターの思い) ① 気軽にお茶やおしゃべりをする場が少ないエリアであるため、コミュニティスペースが利用できることは地域の暮らしを支える拠点となっている。 ② 就労継続支援B型の運営であることで障害者福祉と高齢者福祉の協働ができ、コミュニティスペースが地域共生社会の推進にも寄与している。			
【写真・チラシ】			
			
コミュニティスペース 内観		コミュニティスペース 入口	

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和6年5月	支援種別	地域資源開発・活用
圏域	花見川圏域、にれの木台圏域、中央区松ヶ丘圏域		
施設種別	認知症対応型グループホーム、居宅介護支援、訪問看護ステーション、介護施設・老人ホーム相談センター		
施設名称	ガーデンコート花島、さいが居宅介護支援事業所、さくら咲くはなみがわ、あんしんホーム		
概要			
【テーマ】 複数の多様な主体が協力して運営する交流の場			
【経緯】 兼ねてからあんしんケアセンター花見川が圏域の中に認知症に関する資源が不足していることを把握していた。 ■ 令和6年度 地域住民へ向けた認知症を学ぶ会「な～るほど the world」を6回開催した。 ■ 令和7年度 複数の高齢者支援に関わる事業所が認知症カフェを開始した。 あんしんケアセンターの働きかけもあり、賛同した事業所の協力を得て、認知症カフェを運営していくことになった。運営ボランティアとして地域住民にも協力をしてもらい、高齢者の役割の創出や生きがいに繋げていくこととした。			
【内容・結果】 地域住民が相談し合える・専門職につながる認知症カフェができた。 (名称) はな🌸かふえ (日時) 毎月第3金曜日 14:00～16:00 (内容) 介護予防・認知症に関する講話、音楽会、茶話会 (参加費) 200円 (備考) 看護師・作業療法士・介護支援専門員などの専門職による相談が可能			
【効果】 (事業所) ① 地域住民や専門職へ事業所の周知ができる。 ② 認知症カフェで得た知識や情報を本来事業に活かすことができる。 (地域住民) ① 友人や話し相手がいなくても来ることができる。 ② 認知症や介護のことで困った時に気軽に相談できる場所がある。 (生活支援コーディネーターの思い) ① 住民主体の活動が困難な状況にあるなか、複数の多様な主体が出来ることを持ち寄ることで本来事業を優先した運営ができる。 ② 専門職へ気軽に相談ができる環境であるため、高齢者が早期にセルフケアにつながる事ができる。 ③ マッチング支援として支援対象者へ受付をお願いすることで楽しみや生きがいの創出につなげることができた。			
			介護予防講話
			音楽会
			茶話会
			

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和 7 年 6 月	支援種別	地域資源開発・活用
圏 域	さつきが丘圏域		
施設種別	認知症対応型グループホーム		
施設名称	ゆかりの里		
概 要			
【テーマ】 休憩場所の提供～ベンチの設置～ 【経緯】 令和 7 年 4 月 地域密着型サービス運営推進会議にて、「施設内で地域の高齢者が集うサロンや認知症カフェを始めたい。」との意向を把握した。該当地区は高齢者の交流の場やマッチングできる地域資源が不足していること、認知症カフェも不足していることなどから、新たな地域資源の開発に向けて調整した。 【内容・結果】 施設側は地域交流に熱心である一方、施設のマンパワーが足りないこと、認知症カフェの創出前に普及啓発の段階を踏みたいことなどから、まずは現在の施設が持つ資源を活用できないか提案し、舗道に面した施設の敷地内に入居者の家族が作った木製のベンチを設置した。 【効果】 （施設） ① 施設が持つ資源（入居者の家族が作った木製のベンチ）を活かし、気軽に地域交流を始められた。 ② 草むしりが好きな入居者のために家族が作ったベンチを地域に貢献できた。 ③ ベンチの設置をきっかけに花壇の整備など、さらなる地域交流の展開が考えられる。 （地域住民） ① 散歩途中に休憩場所ができた。 （生活支援コーディネーターの思い） ① 施設からの相談をきっかけに地域踏査を行い、地域に必要な地域資源を開発できた。 ② 他圏域の活動事例を紹介したことで、地域交流へのハードルが低くなった。 ③ ベンチを通じて利用者と家族の思いを地域につなげることができた。 【写真・チラシ】  舗道に面した敷地内にベンチを設置  「ちょっと一息」の掲示を設置し案内			

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和4年12月	支援種別	地域資源開発・活用
圏域	にれの木台圏域		
施設種別	住宅型有料老人ホーム		
施設名称	グッドタイムホーム・新検見川		
概 要			
【テーマ】 地域交流スペースの活用～シニアリーダー体操教室～ 【経緯】 地域交流スペースの活用について系列の施設から紹介があり訪問した。コロナ禍で近隣のシニアリーダー体操教室が閉鎖しているため、地域交流スペースの提供が可能か、相談をした。 【内容・結果】 地域交流スペースでシニアリーダー体操教室を始めることができた。 （日 時）第2・4水曜日 10：00～11:00 （備 考）施設の感染症対策に準じて、人数を制限することで入退室の管理、感染症対策を行った。 現在も人数を制限しているため新規の参加者を募集していない。（令和8年4月） 【効果】 （施設） ① 人数制限により限られた地域住民にはなるが、地域交流ができた。 （地域住民） ① コロナ禍で運動する機会が無くなっていたが、近所で体操できる場所ができて嬉しい。 ② いつものメンバーと顔を合わせることでお互いに安否確認や体調を気遣うことができる。 （生活支援コーディネーターの思い） ① コロナ禍で近隣の体操教室や通いの場が休止している中、社会参加の機会が創出できた。 ② 地域交流のきっかけとして体操教室は地域住民が参加しやすく、少人数である利点を活かして安否確認の場となった。			



シニアリーダー体操教室

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和5年6月	支援種別	地域資源開発・活用
圏域	さつきが丘圏域、にれの木台圏域		
施設種別	認知症対応型グループホーム		
施設名称	ガーデンコート千葉さつきが丘		
概 要			
【テーマ】 施設の敷地を活用した社会参加の場づくり			
【経緯】 令和5年6月 花見川地区の地域ケア会議にて、施設より「地域交流を再開したい」という申し出があった。施設の地域資源を活用できないか検討し、令和5年10月に「土いじりや花壇の手入れを通じた高齢者の活躍の場の提供」を開始した。			
【内容・結果】 （日 時）毎月第4月曜日 10:00～11:00 頃 ※雨天・強風・熱中症警戒アラート発令時は休止 （内 容）施設の敷地内に植えられている花・野菜周辺の草取り、水あげをしながら談笑・交流 （備 考）作業をしない方、起居動作に困難がある方も参加できるように屋外使用のイスを用意			
【効果】 （施設） ① 感染症流行時期も屋外であるため地域の方に使ってもらうことで地域交流が継続できた。 ② 活動がある日は職員が入居者と一緒に庭へ出て、地域の方と直接交流ができた。 ③ 庭の手入れをしてくれたことで、入居者と何を育てるかを考え作業をすることができた。日中活動につながった。 （地域住民） ① 出欠席の連絡が不要で気楽に参加できる。 ② 体調や天候に合わせて、作業はせずにおしゃべりだけで帰る日もある。 ③ 施設のことを知らなかったがどんな方が生活しているか分かるようになった。 （生活支援コーディネーターの思い） ① 野菜の育成・整備が目的ではなく、社会参加の場であることを施設が理解して協力してくれた。 ② 一定のルールを設けることで月1回の活動日だけでなく、行きたい時に行ける場所、一人で作業したい人でも参加できる場所ができた。			
【写真・チラシ】			
 花壇の草取り  参加者同士の交流  花壇に植えられた野菜			

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和4年12月	支援種別	地域資源開発・活用
圏域	幕張圏域		
施設種別	住宅型有料老人ホーム		
施設名称	グッドタイムナーシングホーム・幕張式番館		
概 要			
【テーマ】 施設内における地域住民向け健康教室の開催①			
【経緯】 令和4年12月 施設長より地域交流・地域貢献の意向を受け、意見交換を行った。 令和5年3月 施設が主催する地域住民を対象にした気軽に参加できる健康教室を開始した。			
【内容・結果】 施設職員が講師となり、定期的な健康教室を開始した。 (日 時) 毎週木曜日・金曜日 10:00～12:00 (内 容) コグニサイズ、健康体操、健康相談 (参加費) 無料 (備 考) 要予約			
【効果】 (施設) ① 入居施設は地域との間に壁ができてしまいがちだが、健康教室をきっかけに地域の方が施設内に入ってきてくれるようになった。職員の接遇向上にも繋がる。 ② 体操の後はお茶を飲みながらお話をしているが、楽しそうな声が施設内に聞こえることで施設内も明るくなる。 ③ 施設のイベントではボランティアとしてお手伝いに来てくれるようになった。			
(地域住民) ① 無料で体操ができて、お茶までいただきありがたい限り。自分たちも施設に貢献したいと思うようになった。 ② デイサービスに行っているだけでは時間を持て余すので、行くところがあって嬉しい。			
(生活支援コーディネーターの思い) ① コロナ禍（第5類以降前）に取り組みを始められたことは思いがけないことだった。 ② 運営と体操を施設の職員が担うことで参加する側の安心感につながり、日常の会話の中で健康相談ができる環境があり、介護予防や自立支援に繋がっている。 ③ 想定より人数が多くなる場合は、施設側で人数調整を行うため初めての方も参加しやすい。			



花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和 7 年 12 月	支援種別	地域資源開発・活用
圏 域	幕張圏域		
施設種別	介護付有料老人ホーム		
施設名称	グッドタイムナーシングホーム・幕張		
概 要			
【テーマ】 施設内における地域住民向け健康教室の開催② 【経緯】 令和 5 年より、系列のグッドタイムナーシングホーム・幕張式番館が施設内で健康教室を開催した。 令和 7 年 12 月より、グッドタイムナーシングホーム・幕張でも同様の健康教室を開始した。 【内容・結果】 施設職員が講師となり、定期的な健康教室を開始した。 （日 時）毎週金曜日 13：30～14：20 （内 容）元気体操、エクササイズ （参加費）無料 （備 考）要予約 【効果】 （施設） ① 参加している地域住民同士、地域住民と入居者同士の挨拶や交流が生まれた。 ② 入居者も体操に参加し、「普段よりしっかり体操ができる」「地域の方と交流できる」と喜ばれている。 ③ 開催していく中で、職員より、「地域交流を目的とするのであれば、交流の時間を取った方が良いのではないか」と意見が出た。体操の後、面談室でお茶を飲んで一息ついてから帰ってもらうようになった。お茶の時間を設けたことで参加者同士の交流がより深まっている。 （地域住民） ① 体操に参加した後、後日施設から体調確認の連絡をもらって嬉しかった。 ② 公民館のシニアリーダー体操教室（水曜）以外に、行くところが増えた。 ③ 体操教室に参加して、他の参加者と顔なじみになり交流ができるようになった。 ④ 普段は家に閉じこもりがちな男性が妻に言われて渋々といった様子で参加していたが、参加を重ねるうちに、明るい表情を見せるようになった。今は自発的に体操に参加するようになった。 （生活支援コーディネーターの思い） ① 幕張本郷地区は、花見川区区内でも高齢化率が低く、高齢者が集う場が少ない。 公民館以外に、高齢者が集まり体操や交流のできる場所が増えた。 ② 専門職が対応するため、住民主体の通いの場では対応が心配な方でも参加しやすい。			



花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和 5 年 4 月	支援種別	地域資源開発・活用
圏 域	幕張圏域		
施設種別	社会福祉法人		
施設名称	千葉勤労者福祉会		
概 要			
【テーマ】 社会福祉法人の地域における公益的な取組			
【経緯】 令和 5 年度から花見川区第 1 層協議体に出席され、地域交流や施設内の地域交流室の活用について段階的に協議した。			
【内容・結果】 ■ 令和 5 年度 町内会グランドゴルフへ施設トイレの開放 町内会より「施設近くでグラウンドゴルフをしているが、トイレがなく困っている」とあんしんケアセンターに相談が入る。顔合わせを行い施設内のトイレを開放してもらえることになった。 ■ 令和 6 年度 コロナ禍で休止したシニアリーダー体操教室の再開 ■ 令和 6 年度 地域交流スペースの開放 ■ 令和 7 年度 認知症カフェの開始 施設から認知症カフェを始めたいと相談が入り立ち上げ支援を行った。 (名 称) コミュニティ&ケアラズカフェ Pono (日 時) 毎月第 2 木曜日 13：00～15：00 (内 容) 介護予防・健康づくりに関する講座・交流会 (参加費) 無料 (備 考) 専門職による相談可能			
【効果】 (施設) ① 施設や介護と関わりのなかった地域住民が施設に来訪するきっかけになり、施設の機能や役割、相談先があることを知ってもらうことができた。 ② 職員と地域住民の交流の機会になり、職員も企画を通して知識が増えた。 ③ コミュニティ&ケアラズカフェとして当事者の声を聞いていくことで地域に貢献していく。 (地域住民) ① 参加者同士が顔見知りになり、会話の中で地域の情報交換等を行っている。 ② 近所の子ども食堂が開催した日は場所を開放してくれるので、様々な世代の方と地域交流しながら食事ができる。 (生活支援コーディネーターの思い) ① 一人暮らしの方、高齢になってから転居した方、近くに顔見知りのいない方など、コミュニティカフェとしての機能があり高齢者に限らず地域の居場所になっている。 ② 介護が必要になる前から福祉施設について知ることができ、暮らしの選択肢が増える。 ③ 介護や暮らしで困った時に専門職につなげることができる。			



花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和6年4月	支援種別	地域資源開発・活用
圏域	幕張圏域		
施設種別	小規模多機能型居宅介護		
施設名称	うめの香		
概要			
【テーマ】 地域に訪問する地域交流 【経緯】 令和5年度花見川区第1層協議体で施設の立地が交通アクセスの不便なところであるため、「施設側が訪問していくことを考えたい」との意見があがった。施設職員の派遣を調整した。 【内容・結果】 公民館で活動している老人クラブへ職員を派遣し、施設職員が講師となり体操・脳トレを行った。 【効果】 （施設） ① 地域住民が施設に行くことが難しいため、施設が地域に訪問することで地域交流・地域貢献のきっかけになった。 ② 訪問がきっかけとなり、地域のイベントに利用者と一緒に外出している。 （地域住民） ① 「自分たちだけではマンネリすることがあるが、いつもと違う方が体操を教えてくれると刺激がある。脳トレも楽しかった。」 （生活支援コーディネーターの思い） ① 地域住民が行くことが難しい場所に施設があるが、施設側から地域に訪問することで介護予防の活動につながり地域の大事な資源として活用ができた。 【写真・チラシ】  健康体操  脳トレ			

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和 5 年～	支援種別	地域資源開発・活用
圏 域	花見川圏域、さつきが丘圏域、花園圏域		
施設種別	認知症対応型グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホーム、介護付有料老人ホーム		
施設名称	ガーデンコート花島、ガーデンコート千葉さつきが丘、ご長寿くらぶ千葉・花園、ハートフル幕張、ハートフルニュー幕張		
概 要			
【テーマ】 敷地内移動販売の地域開放～できることから始める～ 【経緯】 施設から地域交流の意向があり、各施設へ訪問した。施設敷地内に移動販売が来ていることを把握し、施設に負担なくできる地域交流・地域貢献として移動販売の地域開放を提案した。 【内容・結果】 施設に来ている移動販売を地域住民が利用できるようになった。 (種類／頻度) 移動パン屋 / 1 施設 月 2 回 移動スーパー／ 1 施設 月 1 回 移動コンビニ／ 2 施設 月 1 回 【効果】 (施設) ① 施設にあるものを活用することで、地域住民が足を運んでくれる。 ② 施設や入居者のことを知ってもらえるきっかけになる。 (地域住民) ① 昔利用していたパン屋さんが近所の施設に来ていて、懐かしい気持ちで買い物している。 ② 施設にどのような職員がいてどのような人が暮らしているのか様子が分かり、今後の暮らしの参考になる。 (生活支援コーディネーターの思い) ① 移動販売は敷地内の屋外であることから、コロナ禍でも地域開放が進みやすかった。 ② 日頃、多くの地域住民が買い物をしている訳ではないが、ケガや退院後など一時的に買物に困ることがあった場合には、近所の住民にとって助けになる資源となった。 【写真・チラシ】			
 移動パン屋  移動コンビニ			

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和7年4月	支援種別	地域資源開発・活用
圏域	花園圏域		
施設種別	介護付き有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅		
施設名称	ハートフルニュー幕張、ボンセジュール花見川、ご長寿くらぶ千葉・花園		
概 要			
【テーマ】 施設のスペース・行事を活用した地域交流 【経緯】 令和5年度から花見川区第1層協議体において福祉施設等における地域交流スペースの活用や地域交流について検討を重ね、関係構築に努めてきた。花園圏域内4施設と定期的に情報共有を継続し、施設内スペースや行事の活用を検討した。 【内容・結果】 ■ ハートフルニュー幕張 ① 地域住民対象の出張カフェ（出張カフェ団体・セラピードッグ団体共）に食堂を提供した。 出張カフェ ■ ボンセジュール花見川 ① 入居者向けの健康づくり活動やイベントを地域住民へ開放した。 例／ラジオ体操・口腔体操（毎日昼食前）、健康体操（月1～2回）、オンライン歌謡コンサート等 ② 音楽サークルの発表やフレイル高齢者の活躍の場として、入居者向けの発表の場を提供した。 ③ 地域住民の活動場所として利用してもらえるよう、1階会議室を無料提供した。			

■ ご長寿くらぶ千葉・花園

- ① 施設の一部（1階食堂・談話コーナー）を地域住民の活動の場として提供。
地域住民がサークル活動や会議で利用してもらえるよう提供した。
地域住民向けの出張カフェ団体へ活動場所を提供した。
- ② 行事やイベントを活用した地域交流・地域開放。
入居者が利用している移動販売（スーパー、鮮魚）を地域住民へ開放した。
施設の季節行事（夏祭り等）を事前に周知し地域へ開放した。
入居者向けサークル活動を地域住民へ開放し、講師にも参加者にもなれる工夫をした。



出張カフェ

【効果】

（施設）

- ① 地域交流・地域貢献が施設の周知につながった。
- ② 地域住民が施設に来訪し交流することで、入居者、職員にも良い刺激になっている。

（地域住民）

- ① 外観を知っているだけの施設を身近に感じられるようになった。
- ② 無料で借りられる場所ができて助かる。
- ③ 施設のサークル活動に参加できると、介護保険サービスを利用しなくても運動や交流の機会が持てる。知人も誘ってみたいとなった。

（生活支援コーディネーターの思い）

- ① 利便性や専門職が常駐している等の入所施設の特徴から、フレイル高齢者が安心して通える運動や交流の場の開発につながった。見守り機能も果たすことができています。
- ② 地域にある施設が身近な存在として自宅に暮らしながら利用ができるようになった。
- ③ 困りごとや相談があるときに施設を拠点にあんしんケアセンターや専門職とつながることができるようになった。

4. 活動事例

マッチング支援

マッチング支援とは、支援対象者のかつての趣味や強み、思いなどを地域資源とつなげる取組です。

「小さなきっかけ」が、フレイル状態にある方々の活動性を高め、介護予防や社会参加への第一歩となります。

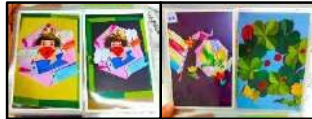
生活支援体制整備事業が目指す、高齢者の生活機能の維持・向上や地域の支え合いの仕組みづくりがどのようなカタチになっているのか、具体的なマッチングの成果をご紹介します。

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和6年11月	支援種別	マッチング支援
圏域	花見川圏域、さつきが丘圏域、花園圏域、稲毛区園生圏域		
施設種別	認知症対応型グループホーム、デイサービス、小規模多機能型居宅介護		
施設名称	ガーデンコート花島、ちぐさの家、ガーデンコート稲毛園生、花見川いきいきプラザ、がってん！となり組		
概要			
【テーマ】 視覚障害がある女性と高齢男性の夫婦の活躍の場～オカリナとギター演奏～			
【経緯】 T夫妻は住民主催の通いの場でオカリナとギターの演奏をしていたが、令和6年10月に通いの場が閉鎖した。T妻の視覚障害が進行し、活動機会が減少したこともあり、演奏のやりがいも薄れていた。生活支援コーディネーターはT夫妻の思いを伺い、高齢者施設への楽器演奏ボランティアを提案した。			
【内容・結果】 花見川区内5施設にて、演奏会の定期開催をした。 (頻度) 月4～5回 (備考) 事前に曲のリクエストを募集する			
【効果】 (施設) ① 地域住民のボランティアを受け入れることで、地域交流になった。 ② 入居者の社会参加の機会が増え、毎月の演奏会が楽しみになっている。			
(対象者) ① 「今やれることを続けようと思った」「新たな曲にチャレンジするようになった」とT夫婦ともに前向きな発言が見られるようになった。 ② 演奏会の頻度が多くなったことで、健康面に意識が向き、「食事をきちんと食べるようになった」「目薬をきちんと注すようになった」などT妻のセルフケアに変化があった。 ③ 「参加者に喜んでもらいたい」と視力低下しても演奏ができる楽器「デスクベル」を始めた。			
(生活支援コーディネーターの思い) ① リクエストに応えられるよう、新しい曲を練習することで、演奏会の日だけでなく、T夫妻の日常の活動性が向上できた。 ② 利用者や職員との交流、リクエストへの成功体験などから次の演奏会の活動意欲になった。 ③ 結果、「今後も演奏会を続けたい」ために、健康意識の向上に繋がった。			
【写真・チラシ】			
 T夫(左)はギター、 T妻(右)はオカリナを演奏  デイサービスでの演奏  デスクベル  高齢者施設が主催する 認知症カフェでも演奏			

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和7年12月	支援内容	マッチング支援
圏域	花見川圏域、にれの木台圏域、花園圏域		
施設種別	サービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホーム、認知症対応型グループホーム		
施設名称	ご長寿くらぶ千葉・花園、ガーデンコート花島、グットタイムホーム新検見川、グループホームきらら朝日ヶ丘		
概 要			
【テーマ】 主に自宅内で活動している高齢女性の楽しみを広げる～ハーモニカ・大正琴・折り紙～			
【経緯】 対象者の娘より、「母が家に閉じこもっていてばかりで心配」と生活支援コーディネーターへ相談があった。生活支援コーディネーターと対象者が顔合わせし、趣味がハーモニカ・大正琴の演奏、繊細な折り紙作品づくりであること、コロナ禍前から千葉市介護支援ボランティア制度※を活用していたことを把握した。自宅周辺の高齢者施設でボランティアできる場をマッチングすることにした。			
【内容・結果】 各施設へ介護支援ボランティア制度を活用して定期訪問した。 （内 容）花見川区内4施設 ハーモニカ・大正琴の演奏会 折り紙教室 （頻 度）月5回、1回あたり60分			
【効果】 （施設） ① 入居者が一緒に歌を唄い、音楽を聞くことに喜びを感じている。 ② レクリエーションの趣向が変わり、入居者に良い刺激となった。 ③ 大正琴を演奏していた入居者（認知症の人）と対象者が出会い、対象者が利用者の琴の弦を張替えたり、楽譜を提供したり、入居者自身の活動・趣味の幅が増えた。 ④ 対象者が来所することで職員の接遇向上につながっている。 ⑤ 対象者の意欲向上のために、介護支援ボランティア制度に登録した。			
（対象者） ① コロナ禍により、ボランティア活動が低調になっていたが、新規演奏先ができたことで、演奏会に向けての練習や新しい演奏のプログラムの考えるなど、対象者の意欲、活動量が大幅に増えた。 ② 介護支援ボランティア制度のポイントが増えて、やりがいを感じている。			
（生活支援コーディネーターの思い） ① ボランティア活動に出かけることが日常生活の中で対象者の活動量の増加に繋がっている。活動期間中、対象者の入院・手術もあったが演奏再開に向けて前向きに日々過ごすことが出来た。 ② 施設側に介護支援ボランティア制度を提案したことで3施設が新規登録した。 ③ 介護支援ボランティア制度の集めたポイント数＝活動量や達成感の可視化になった。 ④ 第1層・第2層生活支援コーディネーターと連携し、短期間で演奏先を開発することができた。			
※ 高齢者が高齢者施設などでボランティア活動を行い、介護保険料などに充てることができるポイントを付与し、介護予防の促進や社会活動参加などを支援する千葉市の制度			



折り紙作品



入居者(左)と対象者(右)が大正琴でセッション



折り紙教室

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和7年2月	支援種別	マッチング支援
圏域	さつきが丘圏域		
施設種別	デイサービス、調剤薬局		
施設名称	リハビリデイサービスいきいき千種町、ヤックスドラッグ千種薬局		
概要			
【テーマ】 高齢者の活躍の場の提供～作品の展示と配布・地域交流の拠点～			
【経緯】 令和6年12月 地域密着型サービス運営推進会議にて「利用者がリハビリやレクを通して作成した本のしおりや利用者の家族にもご協力いただいた新聞紙のエコバッグを公民館などに設置し、地域住民に活用してもらえないか」との意向を把握した。利用者の生活圏内で目にする機会が得られる施設周辺で設置できないか、生活支援コーディネーターが連絡調整した。			
【内容・結果】 ヤックスドラッグ千種薬局内で作品の展示、配布をすることになった。 (場 所) 調剤薬局レジ横に新聞紙のエコバッグ、血圧測定器横に本のしおりを設置した。 (備 考) 施設から約450mにある調剤薬局。作品が完成次第、施設が持参し、追加する。 調剤薬局からの承諾を得て、施設紹介も併せて掲示した。			
【効果】 (施設) ① 施設周辺の関係機関と定期的に顔合わせることができた。 ② 地域住民への施設の周知も兼ねることができた。 (対象者) ① リハビリで作成した作品が施設職員や家族以外に見てもらえる機会が増えた。 (生活支援コーディネーターの思い) ① 利用者の行きやすさ(生活圏内であり、身近な薬局でもある)、地域住民の目に留まりやすさなど踏まえて、調剤薬局と調整することができた。 ② 「施設や自宅に居ながらでもできる社会参加」の方法として、地域資源の開発にも繋がった。			
【写真・チラシ】			
 血圧測定器横に設置  しおり (かご付き)  レジ横に設置  施設紹介のチラシを掲示			

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和6年11月	支援種別	マッチング支援
圏域	さつきが丘圏域、にれの木台圏域		
施設種別	認知症対応型グループホーム		
施設名称	ガーデンコート千葉さつきが丘		
概 要			
【テーマ】 転居してきた一人暮らしの高齢女性が社会参加できる居場所づくり～転居前にしていたこと～ 【経緯】 一人暮らしで市外から花見川区へ転居した対象者が「以前は畑仕事をしていた。土をいじりたい。」との相談があったことから、令和5年10月に「土いじりや花壇の手入れを通した高齢者の活躍の場」として始まった花壇ボランティアをマッチングした。 【内容・結果】 月1回の定期活動に参加するようになり、定期活動日以外もその日の気分で自発的に参加し始めた。 【効果】 （施設） ① 入居者と対象者が交流するようになった。 ② 入居者が施設にいながらも敷地内で社会参加できる。 ③ 野菜（オクラ、きゅうりなど）づくりを始めた。（交流・居場所づくりの後押しになった。） （対象者） ① 自分が活動したいときにやりたいことができるため、気軽に参加できる。 ② 役割を与えられたことで意欲を持ち、活動への思いが強くなった。 ③ 活動時に入居者と挨拶や話をするようになった。 ④ 活動で出会った仲間と一緒に別のサークル活動や交流の場に参加するようになった。 （生活支援コーディネーターの思い） ① 既存の交流の場に繋がらない対象者を経験・やりたいことをもとにマッチングできた。 ② 住民主体の交流の場だけでなく、高齢者施設をはじめとした多様な主体の地域資源をマッチングすることで、社会参加の選択肢が広がった。 【写真・チラシ】  花壇の整備中  敷地内の雑草取り  仲間と談笑しながら休憩中			

花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和7年7月	支援種別	マッチング支援
圏域	花園圏域		
施設種別	介護付き有料老人ホーム		
施設名称	ボンセジュール花見川		
概要			
【テーマ】 閉じこもりがちな高齢者の選択肢を広げる～新たな活動の場とのつながり～ 【経緯】 令和7年5月 対象者より「体操や運動がしたい」との希望があった。介護保険サービス利用には消極的で地域にある通いの場を複数紹介したが、近隣に友人がいないとのことで既存の高齢者のグループに入っていくのは気後れされる様子があった。現在は月2回程度（買い物・受診）しか外出をしないため家族のすすめもあり、どこか外出する場所はないかと相談があった。 施設は、対象者の自宅から近く、施設内活動を地域開放する意向があったため、調整をした。 【内容・結果】 入居者向けの健康体操教室に参加できるようになった。 （頻 度）毎月1～2回・1時間/回 （内 容）ストレッチと脳トレ・歌・手話等 【効果】 （施設） ① 日々やっていることを地域に開放することで、地域交流・地域貢献ができた。 （対象者） ① 自分の希望に添った場所があって嬉しい。 ② 開催の予定を把握し、スケジュール管理、天候に合わせた服装、体調管理等のセルフケアに繋がった。 （生活支援コーディネーターの思い） ① 入所施設も地域資源になり得ると分かった。 ② 毎日昼食前に行っているラジオ体操・口腔体操も地域住民へ開放してくれることになり、気軽に参加できる場所が増えた。 ③ 入館の受付時、職員が地域住民の顔を覚えてくれスムーズに対応してくれた。 【写真・チラシ】			



体操教室の様子



花見川区第1層協議体 活動事例

開催時期	令和7年2月	支援種別	マッチング支援
圏域	幕張圏域		
施設種別	デイサービス		
施設名称	つどい武石		
概要			
【テーマ】 一人暮らしの高齢男性が地域の中で役割をもつ～駄菓子屋のお手伝い～ 【経緯】 社会参加につながりにくい高齢男性が参加できる場として、デイサービスで行われている駄菓子屋でお手伝いをさせてもらえないか施設へ相談をした。対象者が「役割」を持って、外出する機会や交流する機会の創出を検討した。 【内容・結果】 駄菓子屋のお手伝いをするようになった。 （日 時）毎週水曜日 14：00 頃から （内 容）準備、子供たちの見守り、カゴの受け渡し、片付け （備 考）休憩にデイサービスでおやつを一緒にいただく 【効果】 （施設） ① 対象者がお手伝いしてくれることで、デイサービスも男性が利用しやすくなる。 ② 地域の人との関わりが見えることで、新たな交流のきっかけが生まれる。 （対象者） ① 笑顔が見られるようになった。 ② 曜日や1日の予定を気にするようになった。 ③ 「手伝えることがあればやるよ」と前向きな発言が見られるようになった。 ④ 予定していた日に来ない時には施設から連絡があり、安否確認を行うことができた。 （生活支援コーディネーターの思い） ① デイサービスに協力と理解をいただき実施できたマッチング支援だった。 ② 日時を誤って訪ねることがあったが、職員が丁寧に対応してくれたことで人とのコミュニケーションに戸惑いが少なかった。 ③ 駄菓子屋に来る子供達との交流で自然と笑顔が増え、支援するだけでは見えない本人の新たな一面をみることができた。			



駄菓子屋の品出し中



子どもたちをお出迎え中

5. 問合せ先

区域を担当する生活支援コーディネーター (第1層生活支援コーディネーター)

担当エリア	事業所	連絡先
花見川区全域	千葉市社会福祉協議会 花見川区事務所	043-275-6438

あんしんケアセンター圏域を担当する生活支援コーディネーター (第2層生活支援コーディネーター)

担当エリア	事業所	連絡先
こてはし台圏域	千葉市あんしんケアセンター こてはし台	043-258-8750
花見川圏域	千葉市あんしんケアセンター 花見川	043-250-1701
さつきが丘圏域	千葉市あんしんケアセンター さつきが丘	043-307-3225
にれの木台圏域	千葉市あんしんケアセンター にれの木台	043-205-4851
花園圏域	千葉市あんしんケアセンター 花園	043-216-2610
幕張圏域	千葉市あんしんケアセンター 幕張	043-212-7300

千葉市 保健福祉局健康福祉部 地域包括ケア推進課 地域包括支援班

電話	043-245-5168
FAX	043-245-5293
mail	houkatsu-shien@city.chiba.lg.jp